

学びの力で未来をつくる

～地域に根づき、専門職として

社会教育・児童福祉を支えます～

■経営計画策定にあたって

(公財)奈良市生涯学習財団は、平成13年(2001年)の設立からこれまで、奈良市の公民館事業を担い、生涯学習・社会教育を支えるとともに、令和2年度(2020年度)からは奈良市の児童館事業を担ってきました。そして、令和5年度(2023年度)からは新たに西部会館市民ホールと男女共同参画センターの指定管理者になるなど、各施設において業務について安定的な運営に努めてまいりました。

急速な社会変化に伴い、生涯学習・社会教育・児童福祉などの分野において市民のニーズは多様化し、地域の課題は複雑化・複合化しています。一方、奈良市の行財政改革による外郭団体改革など財団の経営面では厳しい状況が見込まれますが、限られた資源のなかでも今後も成果を出し続けることが求められています。

これまで、当財団及び各施設の運営は、専門職である職員個人の資質・力量に頼っていましたが、今後予想される社会の変化に対応していくには、組織として将来的なビジョンや運営方針を明確にし、財団として目指すべき方向性をしっかりと定めていくことが必要です。また、今後も安定的に市民サービスを提供していくためには、組織として経営基盤を確かなものとすることも重要であります。

当財団の活動は、人と人のつながり、地域づくりなど地域の活性化には欠かすことのできない重要な役割を持つことを認識し、より効率的、効果的な運営を可能にしていくため、今般、経営計画を策定することといたしました。

これにより、市民の皆様により良いサービスを提供してまいります所存でございます。

目次

I 経営理念	使 命 / 行 動 指 針	…p1
II 経営ビジョン	中期経営ビジョン	…p2
III 経営方針	現状分析と課題	…p3-5
	経営方針	…p6
IV 経営計画	全体計画	…p7

I 経営理念

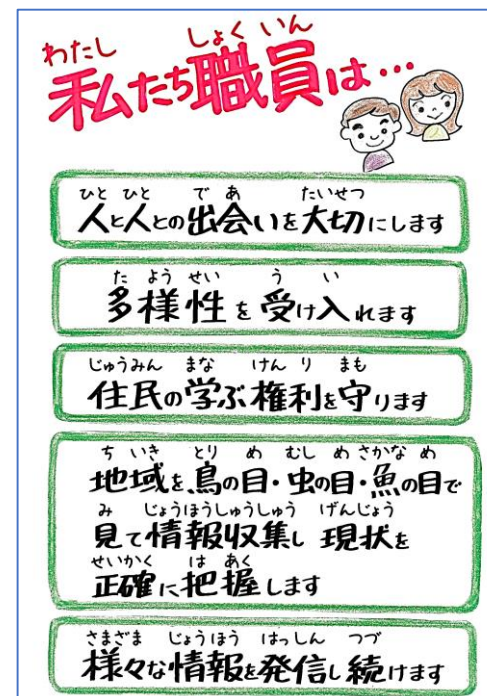
使命

「学びの力で未来をつくる」という信念を持ち、地域に根づいた専門職集団として、奈良市の生涯学習・社会教育・児童福祉を支え続けます。

行動指針

- (1) 人と人との出会いを大切にします。
- (2) 多様性を受け入れます。
- (3) 住民の学ぶ権利を守ります。
- (4) 地域を鳥の目・虫の目・魚の目で見て
情報収集し、現状を正確に把握します。
- (5) 学習情報・地域情報を発信し続けます。

行動指針は、このような形で
公民館23館と生涯学習セン
ターの玄関・窓口付近に掲
示しています



Ⅱ 経営ビジョン

中期経営ビジョン

(1) 個人の自由で豊かな学びを保障します。

～市民1人ひとりがよりよく生き、暮らすために～



(2) いつでも誰でも立ち寄れる居場所づくりを行います。

～誰でも自由にふらっと立ち寄り、誰かとつながることができる公民館・児童館～

(3) 地域課題等解決のため、地域活動の教育的支援を行います。

～誰もが住みやすく、幸せに暮らせる持続可能なまちづくり～



(4) 行政課題の解決に向け、奈良市と協働します。

～教育的視点から提案を行い、協働を通して解決を目指します～

(5) 組織としての経営基盤を確立し、自律を目指します。



Ⅲ 経営方針

現状分析と課題 Ⅰ

財団の外部環境と内部環境を強み・弱み・機会・脅威の4つの要素で要因分析するクロスSWOT分析を基に、現状分析と課題の抽出を行い、以下の7点にまとめました。

- (1) 人生100年時代を迎え、今後もより一層個人の自由な学びを支えていくことが求められています。
一方で、利用者の減少や固定化、認知度の低さは課題であり、施設の存在意義をアピールし、施設を活用する市民を増やす必要があります。
- (2) 地域のつながりが低下していくなか、地域コミュニティの基盤を支えていく役割は、今後より一層求められます。
そのためには、職員が地域にアウトリーチし、地域のニーズや課題の把握により一層努める必要があります。
- (3) 今後、多様化・複雑化していく地域課題には、住民が主体的に行動し、関係各所が協力しながら対応することが必要となります。
それに対し、職員が教育的支援を行い、コーディネートの役割を発揮することで、当財団としての貢献が可能となります。

Ⅲ 経営方針

現状分析と課題 2

(4) グローバル化の進展、生き方の多様化に伴い、他者理解のための学習、人権学習は今後一層重要となります。

誰もが社会の一員として尊重され、機会や資源に平等にアクセスできる社会的包摂の実現を目指し、そのための学習機会を提供していく必要があります。

(5) 情報発信力の弱さ、広報力不足が課題です。DXを活用し、幅広い世代への情報発信を行うことで、これまで施設を利用することのなかった人と人、人と地域がつながる場を支援することが可能となります。また、DX化により業務の効率化も期待できます。

Ⅲ 経営方針

現状分析と課題 3

- (6) 短期間での指定管理施設の増加に伴い、組織体制の見直しが求められます。
また、組織としての運営方針を明確にしたうえでガバナンスを強化し、それに基づいて職員のスキルアップを目指すことが求められます。
- (7) 近年の物価や最低賃金等の上昇に伴い、限られた予算での運営を余儀なくされています。
このような状況のなかで組織としての使命を果たしていくためには、効率的な組織運営を行うだけでなく、奈良市担当各課と財政基盤の安定化について対話を重ねていく必要があります。
さらに、助成金を活用するなど自主財源を確保していくことも求められます。

Ⅲ 経営方針

経営方針

- (1) 個人の学びを支える、多様な事業を展開します。
- (2) 誰もが知っている、市民にとって身近な存在となります。
- (3) 市民の意見を反映させた運営・取組により、安心できる居場所を提供します。
- (4) 教育的支援から、地域コミュニティの基盤を支えます。
- (5) 社会的包摂を目指し、他者理解を進める役割を果たします。
- (6) 地域の防災拠点として、地域の防災力を高める取組を進めます。
- (7) 市の各課と連携・協働し、様々な行政課題に対応します。
- (8) DX化を進め、幅広い世代が利用しやすい施設にします。
- (9) 組織体制の見直しを図り、ガバナンスを強化します。
- (10) 財源基盤の安定化を図ります。

Ⅳ 経営計画

全体計画



- (1) 誰もが知っている、市民にとって身近な「奈良市生涯学習財団」を築きます。
- (2) 地域に根差し、地域課題・行政課題に対応した多様な事業展開をする
「奈良市生涯学習財団」を築きます。
- (3) 職員1人ひとりのスキルアップを目指し、全職員がチームとなって作り上げる
「奈良市生涯学習財団」を築きます。

